

平成29（2017）年度入学者

専門教育科目

科目名	生涯学習論	科目ナンバリング	YF_L21007
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

本講義では、生涯学習や生涯学習社会について理解することをめざします。とくに学校教育との関係から、生涯学習の特徴を学びます。生涯学習は誰によって、いつ、どこで行われるかは多様です。生涯学習が、人の一生と関わることで、人が暮らして行く社会や文化、時代の影響を受けることを理解したうえで、福祉社会における生涯学習とは何か考えます。

《テキスト》

『新しい時代の生涯学習』関口礼子他著(2002, 有斐閣アルマ)

《参考図書》

適宜、提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 「生涯学習」という考え方について理解する
 - 「生涯学習」とは何か・なぜ必要なのか説明できる
- (2) 「生涯学習」と「生涯発達」の関係について理解する
 - 人はどのように「生涯」を通して発達するか説明できる
- (3) 「生涯学習」と社会福祉の関係について考えをまとめる
 - 「生涯学習」とライフサイクルの変化について説明できる
 - 「生涯学習」と地域社会づくりについて説明できる

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしてください。

《成績評価の方法》

○ 授業内レポート1-2回および調査発表などを数回実施する。(文章作成能力および知識の定着度：45点) ○ 学習の総まとめとして第15回に学習達成度を評価する。(知識体系を理解する力、批判的思考力、関心・意欲など：55点) ○ 試験やレポートにコメントを付して返却し質問を受け付ける。

《備考》

社会状況とくに福祉社会や生涯学習社会に関する情報・知識を入手するよう努めること。講義内容を現実社会との関係から理解するため専門用語の図示・図解する演習を適宜取り入れる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生涯学習とは何か	○「生涯学習」導入の背景 ○教育と学習 ○生涯学習と社会教育について理解する
2	生涯学習と生涯発達	○発達段階と発達課題 ○第1の発達と第2の発達 ○高齢期の発達課題について理解する
3	社会の変化と生涯学習(1)	○人口動態の変化 ○人口の高齢化 ○高齢者にとっての学習について理解する
4	社会の変化と生涯学習(2)	○情報化社会と学習 ○学習支援技術 ○遠隔教育について理解する
5	社会の変化と生涯学習(3)	○グローバル化と学習 ○グローバル化と教育制度 ○グローバル化時代の学習課題について理解する
6	社会の変化と生涯学習(4)	○ライフコースの変化 ○少子化と家族の変化 ○男女平等教育と家庭教育(学習)について理解する
7	生涯学習の方法(1)(演習を含む)	○方法論の重要性 ○アンドラゴジーとペダゴジー ○生涯学習の方法について理解する
8	生涯学習の場(1)	○社会資源の利用 ○地域社会における学び ○図書館と公民館/地域センターについて理解する
9	生涯学習プログラムの開発(演習を含む)	○地域のニーズ ○プログラムの対象 ○企画・広報について理解する
10	生涯学習の方法(2)(演習を含む)	○学校の開放 ○学社融合 ○大学の開放について理解する
11	生涯学習の方法(3)(演習を含む)	○実践例に学ぶ ○ボランティア ○NPO活動について理解する
12	生涯学習の場(2)	○職業的社会化と発達 ○職業指導 ○企業内教育について理解する
13	生涯学習の場(3)	○教育によらない学習 ○宗教と儀式(祭り) ○芸術と音楽について理解する
14	生涯学習と生涯福祉	○生涯発達と生涯学習 ○地域福祉と生涯学習 ○社会変化と生涯学習について理解する
15	学習の総まとめ	学習目標およびディプロマポリシーを再確認し、学習成果についてまとめる

科目名	生涯発達心理学 I	科目ナンバリング	YF_L21008
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

人間の生涯にわたる発達のプロセスを理解することを目的として授業を展開する。受胎の瞬間から始まり、死をもって終結する人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。発達の障がいに関する基礎知識について理解することも目的とする。

《授業の到達目標》

- 生涯発達心理学の基礎的事項について十分に理解すること。
- 人間の生涯にわたる発達のプロセスを正しく理解すること。

《成績評価の方法》

最終回の授業時間内に行う筆記試験の評価100%。
 質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《テキスト》

使用しない。授業時にプリントを配布し、プリントの内容に即して講義を進める。

《参考図書》

- 『発達心理学で読み解く保育エピソード』
 若尾良徳・岡部康成（編著） 北樹出版 2010
- 『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』
 川島一夫・渡辺弥生（編著） 福村出版 2010

《授業時間外学習》

担当教員が作成・配布したプリントを用いて講義を進めるが、各自で要点をノートにまとめるなどして、知識の定着と理解の深化に努めてもらいたい。また、参考図書としてあげた図書を参照しつつ、講義で取り上げた事柄について各自で理解を深めることも期待する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生涯発達心理学への導入	生涯発達心理学では何をどのような目的のもとに学ぶのかを解説する。授業の進め方と評価の仕方についてシラバスをもとに確認する。
2	人間発達を理解する	人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について学ぶことになる。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間発達の規定因は何かという問いについて、遺伝と環境という2つの観点から答えを探っていく。
4	胎児期から新生児期にかけての発達	胎児期の発達の特徴について、特に母体内環境の重要性に焦点を当てつつ学ぶ。新生児に秘められた数々の能力についても学ぶ。
5	新生児期から乳児期にかけての発達	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
6	乳児期から幼児期にかけての発達～その1	乳幼児期における発達の特徴について、母子関係を切り口として学ぶ。愛着をキーワードとした学びになる。
7	乳児期から幼児期にかけての発達～その2	乳幼児期における発達の特徴について、言語発達と遊びに焦点を当てて学ぶ。
8	幼児期の発達	幼児期における発達の特徴について、注目獲得行動とセルフ・コントロールに焦点を当てて学ぶ。
9	幼児期から児童期の発達	幼児期から児童期にかけての知的発達について、ピアジェの理論をもとに学ぶ。
10	児童期の発達～その1	児童期の発達について、人間関係の観点から学ぶ。
11	児童期の発達～その2	児童期の発達について、学習に対するモチベーションに焦点を当てて学ぶ。
12	青年期の発達	青年期の発達について、アイデンティティの確立をキーワードにして学ぶ。
13	成人期の発達～その1	成人期の発達に関して、親としての成長ならびに中年期危機に焦点を当てて学ぶ。
14	成人期の発達～その2	高齢者の心理的発達について学ぶ。
15	学習のまとめ	学習成果を測定するための試験を行う。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	社会福祉 I	科目ナンバリング	YF_L11001
担当者氏名	田中 博一		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 		

《授業の概要》

社会福祉の発達と国民に普遍的な課題となった介護や子育て支援等を、具体的な事例を通して、社会福祉サービス体系の役割・機能を解説する。社会福祉の諸制度と支援の方法（相談援助）を、事例を通して解説する。講義は視聴覚教材も併用して、テキスト等の示すデータの意味や社会福祉六法と関連領域法令を。

《授業の到達目標》

現代の社会福祉サービス体系を理解し、児童福祉、障害者福祉、老人福祉と生活保護における支援の役割・機能を理解する。また、社会福祉における支援方法の概要を理解する。さらに、事例を通して課題解決の思考力を養う。

《テキスト》

『国民の福祉と介護の動向2016/2017』1厚生労働統計協会編

《参考図書》

『社会福祉の原理と思想』岩田 正美 永岡 正己 武川 正吾
平岡 公一編 有斐閣
『日本社会福祉の歴史』菊池、清水、田中、永岡、室田編
ミネルヴァ書房
『ジェネラリスト・ソーシャルワークの基盤と展開』山辺朗子
ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》

なし

《成績評価の方法》

期末に筆記試験を実施して評価する。(100%)
別紙に正解とコメントを付して渡す。

《備考》

1 事前学習 次回講義予定内容に関連するテキストを読む
2 復習 ノートの整理

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉の理念	現代の社会福祉の概要と憲法25条、13条の意味を解説する。
2	社会福祉の歴史	イギリスと日本の社会福祉の発達史を解説する
3	社会福祉の行財政	国、都道府県、市町村の社会福祉関連機関を役割・機能を解説し、国家予算および地方自治体の社会福祉費用の現状とその構造を示す。
4	障害者福祉 I	日本の障害者福祉の歴史と障害者福祉の現状について解説し、障害者権利条約 障害者基本法についてその基本的な考え方について解説する。
5	障害者福祉 II	I C Fと障害の理解を解説し、障害者総合支援法による介護、医療、就労支援サービスがどのように機能しているか、サービス利用の立場から解説する。
6	老人福祉 I	「高齢社会とは何か」を考え、その社会的影響（消費税など）を解説する。
7	老人福祉 II	年金、高齢者医療の概要を説明し、介護保険を詳しく解説して、介護保険の諸問題を考察する。
8	児童福祉 I	児童福祉の歴史を解説し、現代の児童問題を提示して、その論点を示す。
9	児童福祉 II	児童養護・児童自立支援の制度とその支援過程を解説する。
10	児童福祉 III	「子ども貧困」についてその構造と解決への展望を解説する。
11	生活保護制度	現代の貧困を分析し、生活保護制度の仕組みを解説し、その課題を示す。
12	相談援助 I	相談援助と専門職について解説する。
13	相談援助 II	相談援助の理論と方法について解説する。方法の解説には事例を検討する。
14	地域福祉	市町村の社会福祉計画の概要を説明し、地域の福祉課題を示し、それぞれの住む地域での福祉を考察する。
15	福祉の在り方	ノーマライゼーション、自立思想、利用者本位の視点から現代社会福祉サービスを論ずる。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	社会福祉Ⅱ		科目ナンバリング	YF_L21009
担当者氏名	田中 博一			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する <input type="radio"/> 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する <input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-E 社会・文化について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

社会福祉政策の観点から、戦後の社会福祉政策の潮流を解説する。政策転換期の実態と意義を説明し、サービス供給の現状と課題、国民負担（消費税等）、国と地方の関係、社会福祉専門職の確保と育成、国際比較を通じて我が国の社会福祉政策の現状と課題について述べる。

《テキスト》

『国民福祉の動向2013/2014版』（財）厚生統計協会（編）、厚生統計協会、2013

《参考図書》

『福祉国家という戦略』宮本太郎著 法律文化社、1999
 『福祉資本主義の三つの世界』G.エスピン・アンデルセン著 岡沢・宮本監訳 ミネルヴァ書房、2001

《授業の到達目標》

- 1 我が国の戦後社会福祉政策の軌跡を理解する。
- 2 社会福祉サービス供給体制について理解する。
- 3 社会福祉サービスの利用者本位と利用者負担について理解する。
- 4 社会福祉専門職の職業能力とキャリア形成について理解する。
- 5 社会福祉の国際比較の学習方法を修得する。

《授業時間外学習》

- 1 事前学習 示された次回講義予定のテーマに関連するテキスト、参考文献を読む。
- 2 復習 講義ノート整理をし、理解できている部分と理解不十分な箇所を明らかにし、その不明な点の解消に努める。

《成績評価の方法》

期末に課題についてレポート（約3000字程度）を提出し、それを評価する。（100%）
 レポートにコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉政策の領域	社会福祉制度の体系を解説する。
2	現代福祉政策分析の枠組み	福祉サービス対象者、給付の本質および給付額とサービスの種類、福祉の財政と行政を解説する。
3	戦後日本の社会福祉政策の歩み（1）	生活保護法の制定から児童手当・老人医療費無料化までの期間を福祉制度の確立期から充実期として解説する。
4	戦後日本の社会福祉政策の歩み（2）	経済低成長期下の福祉の調整期からゴールドプランの転換期を解説する
5	再構築期の社会福祉政策	社会保障制度審議会「社会保障体制の再構築」（1995）から現在までの社会福祉の構造改革の意味を解説する。
6	社会福祉サービスの供給のあり方	社会福祉サービスが「措置制度」から「契約」に転換し、利用者の選択権について解説する。
7	市場化と経営主体の多様化	非営利法人の社会福祉法人以外のNPO法人や営利法人が福祉の領域に参入した現状とその意味について解説する。
8	施設サービスと在宅サービス及び地域福祉	施設サービスから地域で生活するための福祉サービスへの政策転換を解説し、その意義と課題を示す。
9	社会福祉の専門職	社会福祉士・介護福祉士・保育士の養成課程を示し、その求められる専門職としての職業能力について解説する。
10	社会福祉におけるキャリア形成	福祉サービスに従事する専門職のキャリア形成を、他産業と比較においてその必要性を解説し、各自のキャリア形成を考える。
11	社会福祉サービスの財源	国、地方自治体、利用者負担の構造を明らかにし、これからの費用負担について展望を示す。
12	社会福祉政策の在り方	地域福祉または地域福祉政策から福祉国家の在り方を考察する
13	現代福祉国家と福祉サービス	普遍化する社会福祉サービスの現状をとおして福祉国家戦略を考察する。
14	北欧型モデルとアメリカ型モデルの比較	高福祉高負担を前提に充実した福祉サービスをもつスウェーデンなどのモデルと自己責任型を重視する「小さな政府を」基本とするアメリカのモデルを比較する。
15	これからの日本における福祉政策の課題	少子高齢社会の進展と日本経済の先行き不透明の課題を分析して、これからの福祉政策を考察する。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	児童家庭福祉	科目ナンバリング	YF_L11003
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷，児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権，児童家庭福祉の制度や実施体系等，児童家庭福祉の現状と課題，児童家庭福祉の動向と展望について理解する。

《テキスト》

『児童家庭福祉』，白地社，2014

《参考図書》

《授業の到達目標》

- 現代社会における児童家庭福祉の現状と課題について理解し，主体的に考えることができる。
- 児童家庭福祉の歴史の変遷，制度や実施体系等について学び，保育実習に活かすことができる。
- 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解し，保育実習において検証することができる。

《授業時間外学習》

子どもの生活にかかわる情報を入手し，授業に反映させられるようにしましょう。
授業前にテキストを読んでおきましょう。

《成績評価の方法》

筆記試験（100%）
（授業終了時に学修の理解度を確認するために小テストを課し定期試験実施直前に返却し復習の機会とすることがある。）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会と子ども - 1	児童家庭福祉を学ぶ意義，授業内容，授業の進め方，評価について説明する。人口の減少と少子高齢社会について理解する。
2	現代社会と子ども - 2	家族形態の多様化について，家族構成の変化，婚姻と離婚，ワークライフバランスをキーワードにして理解する。
3	現代社会と子ども - 3	子どもの貧困について，生存権と幸福追求権，貧困の世代間連鎖をキーワードにして理解する。
4	児童家庭福祉の歴史 - 1	イギリス，アメリカの児童家庭福祉の歴史について理解する。
5	児童家庭福祉の歴史 - 2	わが国の児童家庭福祉の歴史について理解する。
6	児童家庭福祉の歴史 - 3	戦後の国際社会の動き，戦後の国内の動きについて理解する。
7	児童家庭福祉に関する法制度と実施体系 - 1	児童家庭福祉の法体系について理解する。
8	児童家庭福祉に関する法制度と実施体系 - 2	児童家庭福祉の行財政と実施機関について理解する。
9	児童家庭福祉の現状と課題 - 1	ひとり親世帯の現状，母子世帯のワーキングプア，虐待への行政の対応，DV，母子生活支援施設について理解する。
10	児童家庭福祉の現状と課題 - 2	障害のある子どもの現状，障害のとらえ方，障害のある子の就学，障害の概念，障害児への支援，障害のある子どもを持つ親への支援について理解する
11	児童家庭福祉の現状と課題 - 3	母子保健，健全育成について理解する。
12	児童家庭福祉の現状と課題 - 4	社会的養護について，児童福祉施設，里親制度，特別養子縁組をキーワードにして理解する。
13	児童家庭福祉の現状と課題 - 5	多様な保育ニーズについて，保育所の機能を中心にして理解する。
14	児童家庭福祉の動向と展望 - 1	諸外国の子育て支援の動向について，スウェーデンの保育所と就学前児童の保育内容について理解する。
15	児童家庭福祉の動向と展望 - 2	前回の授業を踏まえ，わが国の就学前児童の保育と比較し，かつ，これまでの授業全体を振り返り，わが国の今後について考察する。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	初年次演習 I	科目ナンバリング	YK_S11001
担当者氏名	杉山 貴要江、田中 正彦、田中 博一、斎藤 正寿、未定、中島 龍一、松田 信樹、澤田 真弓、満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む		

《授業の概要》

こども福祉学科での4年間の学びへの円滑な導入を目指して授業を展開する。志を同じくする学友そして教員との良好な人間関係を構築するとともに、大学での学び方そしてこども福祉学科での学びの特徴を理解し専門教育への導入とする。

《テキスト》

こども福祉学科 初年次演習ワークブック

《参考図書》

必要に応じて、授業時間内に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①こども福祉学科に入学した学友と、刺激を与え合うことのできる良好な人間関係を構築すること。
- ②大学での学び方を体得すること。
- ③こども福祉学科での学びの特徴を理解する。

《授業時間外学習》

授業時に出された課題等に積極的に取り組み、指示された通りに提出するよう努めること。

《成績評価の方法》

- ・授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲 50%
 - ・提出された課題に対する評価 50%
- 提出された課題にはコメント等を付して返却する。

《備考》

無断欠席を厳しく禁じる。止むを得ない理由で欠席する場合は、担当教員に事前連絡を入れなければならない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	自己紹介を通じて自分のことを仲間にも知ってもらい、ネームカードを作成する。
2	人間関係の構築	インタビューを通して仲間と教員のことを知る。
3	チームを組んで課題にあたる	キャンパス・ツアーそしてキャンパス・マップの作成 (1) キャンパス・マップに盛り込むキャンパス内の情報を収集する。
4	チームを組んで課題にあたる	キャンパス・ツアーそしてキャンパス・マップの作成 (2) キャンパス・マップを制作する。
5	チームを組んで課題にあたる	キャンパス・ツアーそしてキャンパス・マップの作成 (3) キャンパス・マップのプレゼンテーションを行う。
6	キャリアについて考える	キャリアについて考えを深める (取得した免許・資格を使って社会にどのように参加するかについて認識を深める) (1)
7	キャリアについて考える	キャリアについて考えを深める (取得した免許・資格を使って社会にどのように参加するかについて認識を深める) (2)
8	キャリアについて考える	キャリアについて考えを深める (取得した免許・資格を使って社会にどのように参加するかについて認識を深める) (3)
9	こども福祉学科での学びに向けて	校外実習に出かけて、子どもの目線と保育者の目線との双方から初夏の自然を体感し、季節に応じた保育を展開することの必要性に気づく。
10	こども福祉学科での学びに向けて	ブラインド・ウォークを体験することによって、全身の感覚を研ぎ澄まして自然を感じる。
11	大学での学び方	幼児教育の基礎的スキルとしての造形活動。
12	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての身体表現を学ぶ。
13	こども福祉学科での学びに向けて	幼稚園の現場に足を運んで調べ、理解した内容をまとめる。幼稚園現場観察。
14	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての手遊びを学ぶ。
15	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての音楽について学ぶ。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	初年次演習Ⅱ	科目ナンバリング	YK_S11002
担当者氏名	杉山 貴要江、田中 正彦、田中 博一、斎藤 正寿、未定、中島 龍一、松田 信樹、澤田 真弓、満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む		

《授業の概要》

初年次演習Ⅰに引き続き、こども福祉学科での4年間の学びへの円滑な導入を目指して授業を展開する。志を同じくする学友そして教員との人間関係をさらに深めながら、大学での学び方そしてこども福祉学科での学びの特徴を理解し専門教育への導入とする。

《テキスト》

こども福祉学科 初年次演習ワークブック

《参考図書》

必要に応じて、授業時間内に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①こども福祉学科に入学した学友との関わりを深め、切磋琢磨しあえる人間関係を構築すること。
- ②大学での学び方を体得すること。
- ③こども福祉学科での学びの特徴を理解すること。
- ④卒業後の進路を見据え、学びに対する意欲を高めること。

《授業時間外学習》

授業時に出された課題等に積極的に取り組み、指示された通りに提出するよう努めること。

《成績評価の方法》

- ・授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲 50%
 - ・提出された課題に対する評価 50%
- 提出された課題にはコメント等を付して返却する。

《備考》

無断欠席を厳しく禁じる。止むを得ない理由で欠席する場合は、担当教員に事前連絡を入れなければならない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	Ⅱ期の演習内容の解説を行う。
2	大学での学び方	資料を読んで理解した内容をまとめる
3	大学での学び方	レポートの作成方法を学ぶ（1）
4	大学での学び方	レポートの作成方法を学ぶ（2）
5	大学での学び方	グループ単位でプレゼンテーションの準備をする（1） テーマを選定し調べ学習をスタートする。
6	こども福祉学科での学びに向けて	幼稚園の現場に足を運び理解した内容をまとめる。幼稚園現場観察。
7	こども福祉学科での学びに向けて	校外実習に出かけて、こどもの目線と保育者の目線との双方から秋の自然を体感し、幼児教育・保育と季節との関わりについて考える機会とする。
8	大学での学び方	グループ単位でプレゼンテーションの準備をする（2） 調べ学習を進めつつスライド等も作成する。
9	大学での学び方	グループ単位でプレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する（1）
10	大学での学び方	グループ単位でプレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する（2）
11	大学での学び方	グループ単位でプレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する（3）
12	こども福祉学科での学びに向けて	レクリエーション活動を通して、幼児教育の基礎的スキルを身につける。
13	キャリアについて考える	コミュニケーション作法：手紙の書き方について学ぶ。
14	キャリアについて考える	コミュニケーション作法：話し方について学ぶ。
15	Ⅱ期の学びのふりかえり	チューターとの面談を通して、理想とする保育者イメージを鮮明にし、これから何を学ぶべきかを再認識する。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	人間福祉論	科目ナンバリング	YK_L11005
担当者氏名	田中 博一		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 		

《授業の概要》

我が国の福祉に大きな影響を与えた人物に焦点を当て、社会福祉（慈善事業・社会事業を含む）の思想と実践を検証し、その人々の主体性、人間観について解説する。そして、現代福祉の根底にある基本的人権（歴史と体系）とノーマライゼーションの思想を解説し、福祉における「自立・自律」および「主体的に生きる」というテーマについて考察する。

《授業の到達目標》

- 1 基本的人権の歴史と体系について理解する
- 2 ノーマライゼーションについて説明できる
- 3 「主体的に生きる」意味を理解できる
- 4 福祉における自立支援が説明できる
- 5 福祉支援における人間理解の意義を理解する

《成績評価の方法》

期末に試験を実施して、それを評価する（100%）
コメントはテスト解答用紙に記入して渡す

《テキスト》

『人間福祉の思想と実践』住谷・田中・山辺編 ミネルヴァ書房

《参考図書》

『ICFの理解と活用』上田 敏著 きょうされん
『障害者福祉の世界』佐藤・小澤著 有斐閣
『ノーマライゼーションの原理』ニイリエ著 現代書館
『エミール』ルソー 岩波書店
『この子らを世の光に』糸賀一雄著 NHK出版

《授業時間外学習》

授業で指摘した個所に関連したことについてさらに調べる。
参考図書を読む

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人間福祉の思想Ⅰ	基本的人権の歴史と体系を解説
2	人間福祉の思想Ⅱ	ノーマライゼーションの思想を解説
3	人間福祉の源流Ⅰ	石井十次の思想と実践を解説
4	人間福祉の源流Ⅱ	留岡幸助の思想と実践を解説
5	人間福祉の源流Ⅲ	糸賀一雄・池田太郎・田村一二の思想と実践
6	人間福祉の体系	基本的人権の確立、ノーマライゼーションの施策の実行、自立生活（自己決定）実現のための福祉の基本理念を示す
7	高齢者福祉と人間福祉Ⅰ	ADL(Activities of Daily Living)からQOL(Quality of Life)へ、高齢者の生活機能を視点に自立と支援を解説。
8	高齢者福祉と人間福祉Ⅱ	正岡子規『病牀六尺』有吉佐和子『恍惚の人』等文学にみる介護をする側、される側の考え方を解説。
9	児童福祉と人間福祉Ⅰ	こどもの貧困、虐待、DVなどにあるように取り巻く環境が悪化し、こどもが育つ環境が社会的な問題となっている。その、本質を見極め課題の解決を考察する。
10	児童福祉と人間福祉	ルソー『エミール』の要点を解説し、ルソーの教育論から見た、養護が必要な子どもに「生きる力」を育むための児童福祉の在り方を示す。
11	障害者福祉と人間福祉Ⅰ	ICFの理論を解説し、障害者の社会参加を広げる意義と方法を示し、共生社会の形成を考察する。
12	障害者福祉と人間福祉Ⅱ	障害者が地域生活し、「主体的に生きる」意味を考察する障害者の自立・自律思想とその実践を解説し、エンパワーメント、セルフ・アドボカシーの理論を解説する。
13	人間福祉の展開にみる支援と援助	ソーシャルワークの理論を解説し、ソーシャルワークが「人間」をどのように扱ってきたかを示し、「生活の主体」としての人間を考察する。
14	共に生きる社会	「孤独死」、「無縁社会」という言葉で表現される地域崩壊の現況を課題を考え、地域の再構築について議論する。
15	社会福祉の新潮流と人間福祉	社会福祉の構造改革から再構築へと、転換期にある社会福祉の方向性を解説し、人間本位の福祉の在り方を提示する。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	保育原理 I	科目ナンバリング	YK_L11006
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

保育という営みを制度や歴史の変遷、内容と方法、子どもの発達過程などの主要な観点から考察し、保育者としての基礎的知識の獲得を目指す

《テキスト》

『よくわかる保育原理第3版』森上史朗浩編、ミネルヴァ書房
 『幼稚園教育要領解説』 『保育所保育指針解説書』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館

《参考図書》

必要に応じて随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 保育の意義と特質について理解できる
- 子どもの発達と保育者の役割について理解できる
- 保育を取り巻く現状と課題について主体的に考えることができる

《授業時間外学習》

予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
 復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること

《成績評価の方法》

授業への参加態度および提出物30% 試験70%
 課題及び授業の到達目標へのフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育の意義と目標
2	保育の基盤としての子ども観	様々な子どもの捉え方 保育者として備えておきたい子ども観
3	保育の歴史の変遷①	西洋の保育
4	保育の歴史の変遷②	日本の保育
5	幼稚園・保育所・認定こども園の意義と役割①	幼稚園・認定こども園の意義と役割
6	幼稚園・保育所・認定こども園の意義と役割②	保育所・認定こども園の意義と役割
7	保育の内容と方法①	養護的側面と教育的側面を併せ持つ保育の特質
8	保育の内容と方法②	子どもの生活と5領域の関係
9	子どもの発達と保育①	環境を通して行う教育とは
10	子どもの発達と保育②	遊びを中心とした総合的な指導とは
11	保育の計画と評価①	保育・教育課程と指導計画
12	保育の計画と評価②	評価の観点と方法
13	多様な保育ニーズと子育て支援	多様化する保育ニーズと子育て支援の現状を理解する
14	保育の現代的課題	現行の保育を取り巻く様々な課題について考察する
15	まとめ	授業全体のまとめ

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	保育原理Ⅱ	科目ナンバリング	YK_L21009
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む		

《授業の概要》

保育原理Ⅰの学習内容をさらに発展させ、個別の事例研究などを取り入れながら保育者として必要な知識を深める。また、家庭や他機関との連携協力にも着目し、保育者としての幅広い視野の獲得を目指す。

《テキスト》

『よくわかる保育原理第3版』森上史朗編、ミネルヴァ書房
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編、フレーベル館

《参考図書》

必要に応じて随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 保育の内容や方法に関する基礎知識をさらに深める
- 保育者としての幅広い視野を獲得する
- 保育施設の現状を理解し、それぞれが抱える課題に対して主体的な意見を述べるができる

《授業時間外学習》

予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
 復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること

《成績評価の方法》

授業への参加態度および提出物30% 試験70%
 課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育とは（保育原理Ⅰの学習内容を踏まえて）
2	子ども理解と保育の方法①	日本における保育の始まりと恩物教育
3	子ども理解と保育の方法②	新教育運動と児童中心主義①
4	子ども理解と保育の方法③	新教育運動と児童中心主義②
5	保育における遊び①	遊びの意義
6	保育における遊び②	子どもの発達と遊び（事例研究）
7	保育の計画と評価①	課程編成の原理と方法
8	保育の計画と評価②	指導計画作成の原理と方法
9	保育の計画と評価③	評価と省察の原理と方法
10	家庭および他機関との連携	子どもを取り巻く多様な人々との連携協力
11	連続性を踏まえた保育①	保育における連続性とは
12	連続性を踏まえた保育②	事例研究
13	保育の現状と課題①	保育現場が抱える今後の課題について検討する
14	保育の現状と課題②	保育現場が抱える今後の課題について検討する
15	まとめ	授業全体のまとめ

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	YK_L11007
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む 		

《授業の概要》

教育をさまざまな視点から検討し、教育と社会との関連や現代社会状況の中で直面する諸問題を考察することにより、教育の本質や基本原理に対する理解を深める。

《テキスト》

プリント（資料）を適宜配布

《参考図書》

中村弘行『人物で学ぶ教育原理』三恵社、2010年。
 広岡義之（編著）『新しい教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。

《授業の到達目標》

- 教育の概念と本質を理解し、これらに基づいて現代の教育問題を分析できる。
- 主な教育思想、教育観を理解し、さまざまな教育方法や教育課程のありかたと関連づけることができる。
- 児童の権利と福祉について理解している。
- 生涯学習の理念について理解している。

《授業時間外学習》

参考図書・資料の関連する部分を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）30%
- ②課題の提出と完成度 30%
- ③授業中のミニテスト 40%

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育とは何か、人間の特性と教育
2	教育の概念と本質	・教育の概念と本質 ・教育の必要性と可能性・限界
3	子どもの発達と教育	・発達とは何か ・発達における教育の役割
4	教育の目的、形態と機能	・教育の目的、形態と機能 ・教育における教師の役割
5	主な西洋教育思想とその系譜①	・子ども観の変遷 ・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容
6	主な西洋教育思想とその系譜②	・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容 ・教育思想、教育哲学が現代の教育に与えている影響
7	公教育制度の成立と発展①	・学校の起源と歴史 ・近代公教育の誕生
8	公教育制度の成立と発展②	・日本における明治期以前の教育 ・日本における近代学校制度の成立と発展
9	教育の内容と方法	・教授と学習の理論 ・さまざまな教育方法
10	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦前まで）
11	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦後）
12	教育における「ケア」	・「ケア」の定義、「ケア」の要素 ・教育における「ケア」、教育における公正と「ケア」
13	児童の福祉と保護	・児童の権利と福祉 ・児童虐待の防止と早期発見、早期対応
14	生涯学習	・生涯学習社会の成立とその背景 ・生涯学習の重要性、自分のライフコースのデザイン
15	まとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による、学習のまとめと振り返り

科目名	こどもの心理学 I	科目ナンバリング	YK_L11008
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とする。誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。また、発達のおまじぎについて理解することも目標とする。

《授業の到達目標》

○保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。○子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。○子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して 成長していく過程を理解すること。○人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。○発達障がいについて正しく理解すること。

《成績評価の方法》

定期試験の評価100%。質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。

《参考図書》

- 『シードブック 保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』 本郷一夫（編） 建帛社 2011
- 『発達心理学で読み解く保育エピソード』 若尾良徳・岡部康成（編著） 北樹出版 2010
- 『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』 川島一夫・渡辺弥生（編著） 福村出版 2010

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人の成長を見つめる心理学への導入	心理学とはどのような学問か、そして「こどもの心理学Ⅰ」ではどのような内容を学ぶのかについて解説する。
2	発達を理解する	人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について学ぶことになる。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間の発達を規定する要因は何かという問いについて、遺伝と環境という2つの観点から答えを探っていく。
4	胎児期から新生児期にかけての発達	胎児期の発達の特徴について学ぶ。新生児に秘められた数々の能力についても学ぶ。
5	新生児期から乳児期にかけての発達	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
6	乳児期から幼児期にかけての発達～その1	乳幼児期の母子関係について学ぶ。
7	乳児期から幼児期にかけての発達～その2	乳幼児期の発達に関して、言語と遊びに焦点を当てて学ぶ。
8	乳児期から幼児期にかけての発達～その3	乳幼児期の発達に関して、注目獲得行動に焦点を当てて学ぶ。
9	幼児期から児童期の発達	幼児期から児童期にかけての知的発達について学ぶ。
10	児童期の発達～その1	児童期の発達に関して、仲間関係、児童-教師との関係の観点から学ぶ。
11	児童期の発達～その2	児童期の発達に関して、学習に対するやる気に焦点を当てて学ぶ。
12	青年期の発達	青年期の発達に関して、アイデンティティの確立をキーワードにして学ぶ。
13	成人期の発達	成人期の発達に関して、特に親としての成長をテーマに学ぶ。
14	発達のおまじぎ～その1	発達障がいについて、障がいの捉え方について学ぶ。
15	発達のおまじぎ～その2	自閉スペクトラム症について詳しく学ぶ。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと環境	科目ナンバリング	YS_S21011
担当者氏名	三宅 茂夫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

領域「環境」は、子どもが身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活や遊びに取り入れようとする力を養うことが目標である。そのなかで多様な感覚や概念等も形成される。本授業では、幼児教育の基本的視点「環境を通して行う教育」から、領域「環境」のねらいを捉え、子どもにとって必要な環境のあり方、保育構成や展開に必要な知識や技能について学ぶ。前半は講義形式で、後半は模擬保育等を実施する。

《テキスト》

・三宅茂夫・大森雅人・爾寛明編著／MINERVA保育実践学講座9「保育内容『環境』論」／ミネルヴァ書房／2010 ・文部科学省／「幼稚園教育要領解説」／フレーベル館／2008

《参考図書》

必要に応じて、文献の紹介や資料の配布を行う。

《授業の到達目標》

幼稚園教育の基本とする事項や領域概念を理解し、領域「環境」の目標やねらい、内容を把握し、それらを生活や遊びの中で培い、育んでいくための保育実践に必要な基礎的な知識や基本的な技能の修得を目指す。

《授業時間外学習》

今回の授業の予習や模擬保育等の準備を入念にしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めておくこと。

《成績評価の方法》

試験（50%）、指導案作成（20%）、レポート（5%）、平常点（25%）などを総合して行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の目的や目標、内容、計画等についての理解。
2	幼稚園教育の基本と領域	幼稚園教育の基本や重視する事項、領域概念などについて理解する。
3	領域「環境」の基盤となる事項について1	領域「環境」の基盤となる事項である好奇心・探究心について調べ学習を通して学ぶ。
4	領域「環境」の基盤となる事項について2	調べ学習の成果を発表し、学びを共有する。
5	領域「環境」の基盤となる事項について3	調べ学習の成果を発表し、学びを共有する。
6	領域「環境」の目標とねらい	領域「環境」に示される目標とねらいに関する理解を深め、子どもが環境とのかかわりを通して身につけていく力を把握する。
7	領域「環境」における内容1	領域「環境」に示される内容に関する理解を深め、子どもが環境とのかかわりを通して身につけていく力を把握する。
8	領域「環境」における内容2	領域「環境」に示される内容に関する理解を深め、子どもが環境とのかかわりを通して身につけていく力を把握する。
9	領域「環境」における指導上の留意点	領域「環境」に示されるねらいと内容をふまえ、それらを指導する上での留意点を理解し、保育を実施する見通しをもつ。
10	指導案作成の理論と実際1	指導案作成のための理論や留意点について理解し、保育を構想する力を身につける。（基本的事項・「子どもの姿」・「ねらい・内容」を中心に）
11	指導案作成の理論と実際2	指導案作成のための理論や留意点について理解し、保育を構想する力を身につける。（「環境構成」「子どもの活動」「保育者の援助・留意点」を中心に）
12	指導案作成の理論と実際3	指導案作成の理論をもとに各自で指導案を作成する。
13	指導案作成の理論と実際4	各自が作成した指導案についてグループで発表、検討し、改善する。
14	指導案作成の理論と実際5	グループで選択した指導案を全体で発表し、学びを共有する。
15	まとめ	学習のまとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと言葉	科目ナンバリング	YS_S21012
担当者氏名	徳永 満理		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する		

《授業の概要》

本教科は、保育者をめざす皆さんが、乳幼児のこことばについて学習する教科である。乳幼児期のこことばを学ぶことは、どのような意味があるのか？ その問いに答える授業をします。保育者に求められることは、こどもや人間をどうとらえるのかを、自分や仲間と共に考えていくことだといえるが、この学びをこことばを中心に進めることにより、今までとは違った子どもの世界が見えてくることだろう。

《授業の到達目標》

幼稚園教育指導要領、保育所保育指針における5領域の中の「言葉」の歴史と内容について学び理解する。こことばの持つ機能を理解し、こことば獲得のプロセスを乳幼児の発達に沿いながら学び、その指導方法を理解し取得する。こことばを育てる文化財を理解しその実践力を培う。創作絵本の制作を通してこことばの大切さを理解する。保育者としてふさわしいこことば感覚を培うことの大切さを学ぶ

《成績評価の方法》

筆記試験（教科書、資料、持ち込み可）60%
 創作絵本 20%
 レポート提出・授業内発表 20%

《テキスト》

『こことばと保育』近藤幹生他・著 ひとなる書房
 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』

《参考図書》

『0歳～5歳 よくわかる読み聞かせ』徳永満理・著 チャイルド社
 『子どもが発見する「ごっこ・劇あそび・劇づくり」』かもがわ出版
 『子どもと楽しむ 手あそび わらべうた』梅谷美子・著 かもがわ出版
 『保育内容・言葉』安倍明子他・著 健ぱく社

《授業時間外学習》

- ・創作絵本作成
- ・絵本の選書と事前練習
- ・子どものいるところに出かけていき、絵本の読み聞かせや手あそびなどを実践させてもらう
- ・演劇や映画などを鑑賞する機会を多く持ち感性を磨く

《備考》

- ・遅刻・早退・欠席の場合は必ず連絡をする事
- ・提出物の期限厳守
- ・授業中の飲食、スマホ扱い、私語厳禁

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション こことばのねらいと内容	・こどもとこことばを学ぶ意義 ・履修上の注意・進め方 ・子どものこことばを育てる児童文化財ー絵本の読み聞かせの演習について
2	領域「言葉」について	・保育内容としての「言葉」の歴史と子どもにとってのこことばについて ・絵本の読み聞かせの演習 ・手あそびの演習の開始
3	人間にとっての「こことば」とは	・こことばの機能を考えるー教科書を中心に ・絵本の読み聞かせ ・手あそびの演習
4	子どもの発達とこことば	・「こことば」の育つみちすじ①こことばを話す前に こことば獲得の土台期 0歳児前半 ・絵本の読み聞かせ ・手あそび演習
5	子どもの発達とこことば	・「こことば」の育つみちすじ②こことばを話す前に こことば獲得の土台期 0歳児後半 ビデオ視聴『乳幼児の発達と保育 0歳児』
6	子どもの発達とこことば	・「こことば」の育つみちすじ③1歳児のこことば ・ビデオ視聴『乳幼児の発達と保育 1歳児』・絵本の読み聞かせと手あそび演習
7	子どもの発達とこことば	・「こことば」の育つみちすじ④2歳児のこことば ・ビデオ視聴『乳幼児の発達と保育 2歳児』・絵本の読み聞かせと手あそび演習
8	子どもの発達と保育	・「こことば」の育つみちすじ⑤3歳児のこことば ・ビデオ視聴『乳幼児の発達と保育 3歳児』・絵本の読み聞かせと手あそび演習
9	子どもの発達と保育	・「こことば」の育つみちすじ⑥4歳児のこことば ・ビデオ視聴『乳幼児の発達と保育 4歳児』・絵本の読み聞かせと手あそび演習
10	こどもの発達と保育	・「こことば」の育つみちすじ⑦5歳児のこことば ・ビデオ視聴『乳幼児の発達と保育 5歳児』・絵本の読み聞かせと手あそび演習
11	「こことば」を育てる①	・こことばを育てるあそびー児童文化財とは ・創作絵本を制作するにあたって
12	「こことば」を育てる②	・児童文化財とのかかわり 絵本について
13	「こことば」を育てる③	・児童文化財との関わり こことばあそび ごっこあそび等 ・ビデオ視聴ー保育所における発表会のビデオ
14	「こことば」を育てる保育者の関わり・役割	・話し合いの場での保育者の役割 ・ケンカ・トラブル場面での保育者の役割 ・幼稚園・保育所におけるこことばをめぐる問題等
15	授業のまとめ	・授業の振り返り ・創作絵本の発表

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと身体表現	科目ナンバリング	YS_S21014
担当者氏名	長井 典子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

こどものあらゆる表現に気付ける保育者となるために、様々な身体表現活動に触れ、自己表現できるようになる。こどもの発達にふさわしい身体表現を知り、保育現場で適切に活用できる技術を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。

《参考図書》

必要に応じて適宜紹介する。

《授業の到達目標》

自分自身が積極的に身体表現できるようになる。子どもの発達を通して、適切な身体表現の方法を知る。発達に適した指導法を、主体的に考え組み立て実践できるようになる。

《授業時間外学習》

日頃から様々な身体表現に興味を持つようにする。授業で実施した表現活動は、必要な時に実践できるようノート等にまとめておくこと。

《成績評価の方法》

平常点40%、グループ発表20%、筆記試験40%

《備考》

動きやすい服装(スカートは不可)で、底の薄いシューズで参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	身体表現の経験	身体表現とは何かを経験する。自身のボディイメージを知り、表現することができる
2	0歳児の表現遊び	0歳児の表現遊びを経験し、表現することの楽しさを知る
3	0歳児の表現遊び	各月例の発達に応じた身体表現遊びを知ることができる
4	1歳児の表現遊び	拍の活動を中心に、音楽を通して自分自身で表現しようとする指導法を学ぶ
5	1歳児の表現遊び	各月例の発達に応じた身体表現遊びを知ることができる
6	2歳児の表現遊び	音楽の要素を知り、模倣活動を中心に表現しようとする指導法を学ぶ
7	2歳児の表現遊び	2歳児の発達を知り、発達に応じた身体表現遊びを知ることができる
8	3歳児の表現遊び	音楽を通して音楽の要素を理解し、自分自身で表現しようとする遊びを学ぶ
9	3歳児の表現遊び	3歳児の発達を知り、発達に応じた身体表現遊びを知ることができる
10	4歳児の表現遊び	1人でできる表現遊びから、複数人、グループ活動へと発展させる指導法を学ぶ
11	4歳児の表現遊び	4歳児の発達を知り、発達に応じた身体表現遊びを知ることができる
12	5歳児の表現遊び	様々な音楽要素を知り、自分自身の思ったように表現できるようにする
13	5歳児の表現遊び	5歳児の発達を知り、発達に応じた身体表現遊びを知ることができる
14	わらべ歌遊び	わらべ歌を通して、異年齢での保育の指導法を学び、実践できるようにする
15	まとめ	学習の振り返り、筆記試験

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと音楽 I	科目ナンバリング	YS_S11001
担当者氏名	立本 千寿子、中條 裕子、西本 由香、前北 恵美、中村 真紀子、津田 安紀子、佐藤 亜衣、津田 俊子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

子ども教育者として望ましい姿勢を保ちつつ、現場における応用力を身につけるための基礎技能を学ぶ。ピアノ初学者から経験者に至るまで、個々の到達度に合わせて個人レッスンと少人数のグループレッスンとを適宜おりまぜながら進めていき、様々な形態での演奏能力を身に付ける。また、連弾を通してアンサンブルの大切さも学ぶ。

《テキスト》

- ① いっしょにうたおう子どもの歌
- ② ピアノ・ステップ・アップ・レッスン
(以上、共同音楽出版社)

《参考図書》

その他楽譜等は、必要に応じて指示・配布する。

《授業の到達目標》

- 楽譜に書かれてあることを理解し、子ども教育に必要なピアノ演奏技術を身に付けることができる。
- コードネームによる奏法や、メロディーと伴奏による演奏ができる。
- 子ども教育現場で使用されている曲や、テキスト以外の様々な楽曲を弾くことができる。

《授業時間外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分に行い、レパートリーを広げていく。

《成績評価の方法》

実技点(60%)、授業平常点(40%)で評価する。

《備考》

ML室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	I期授業内容の説明及びピアノ個人レッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(コードネームと音階の理解)
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(C, F, Gコード)
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(セブンスコード)
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(シャープ系のコード)
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(フラット系のコード)
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(マイナーコード)
7	中間発表会	演奏会形式による個人発表。
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ディミニッシュコード)
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(オーギュメントコード)
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ナインスコード)
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(コードの変換)
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(アルペジジョ)
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(様々な終止形)
14	研究発表会	演奏会形式による個人発表。
15	総まとめ	「こどもと音楽 I」の総まとめ、II期「こどもと音楽 II」に向けての説明と指導。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと音楽Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S21016
担当者氏名	立本 千寿子、中條 裕子、西本 由香、前北 恵美、中村 真紀子、津田 安紀子、佐藤 亜衣、津田 俊子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

子ども教育者として望ましい姿勢を保ちつつ、Ⅰ期の内容を更に発展させる形で、受講生個人の進捗状況に応じて、現場で必要とされるピアノ演奏技能を身につける。子どもの歌の弾きたいは勿論、連弾やピアノ楽曲、マーチ・ワルツ・かけっこ・スキップ・ギャロップといった身体表現と関わりの深い曲等も修得する。

《テキスト》

- ① いっしょにうたおう子どもの歌
 - ② ピアノ・ステップ・アップ・レッスン[仮称]
- (以上、共同音楽出版社)

《参考図書》

その他楽譜等は、必要に応じて指示・配布する。

《授業の到達目標》

- 楽譜に書かれてあることを理解し、子ども教育に必要なピアノ演奏技能を身に付けることができる。
- コードネームによる奏法や、メロディーと伴奏による演奏ができる。
- 子ども教育現場で使用されている曲や、テキスト以外の様々な楽曲を弾くことができる。

《授業時間外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分に行い、レパートリーを広げていく。

《成績評価の方法》

実技点(60%)、授業平常点(40%)で評価する。

《備考》

ML室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	Ⅱ期授業内容の説明及びピアノ個人レッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(伴奏形についての理解)
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(メロディーの運指法について)
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(伴奏形の運指法について)
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(4拍子の伴奏形)
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(3拍子の伴奏形)
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(4拍子と2拍子の違いについて)
7	中間発表会	演奏会形式による個人発表。
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(連符について)
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(メロディーへの和音付け)
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(メロディーと伴奏のバランス)
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(装飾音符の扱い方と演奏法)
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(調性について)
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(移調奏法)
14	研究発表会	演奏会形式による個人発表。
15	総まとめ	「こどもと音楽Ⅱ」の総まとめ。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと造形 I	科目ナンバリング	YS_S11002
担当者氏名	満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

保育現場での造形遊びで生かせる基礎（描写、色彩）や道具の扱い方を学ぶ。お絵描きあそびは、画用紙や絵具を使い好きなように表現する。材料や道具に十分に馴れることで子供たちは、自然に想像や空想をひろげ絵や工作に表したくなる。言葉でいいあわせない気持ちを存分に出すことができる。まずは、小さな思いをコンセプトに作品を制作する。子供の五感や想像力を育む素材やアイデアを提案する。

《授業の到達目標》

鉛筆を使いこなす自由に表現できるようになる。色と形を楽しみ、大胆さや繊細など幅広く表現できるようになる。素材や道具の特徴や特性を学び使いこなす。

《成績評価の方法》

提出作品（100%）により成績評価を行う。

《テキスト》

毎時間ごとに計画書と参考資料を配布する。

《参考図書》

「お絵描きあそび」アトリエ・リュミエール/鈴木あきこ

《授業時間外学習》

予習の方法/毎回使用する素材や材料について研究、収集する。復習の方法/授業内容を再確認し、疑問点がある場合随時答える。

《備考》

授業のはじめに出席をとります。その後時間毎の資料に基づき説明に入ります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション/鉛筆基礎①	材料、道具の説明。鉛筆の持ち方。
2	鉛筆基礎②	線の練習、消しゴム。
3	鉛筆基礎③	立体感、マチエール、線画。
4	鉛筆基礎④	グラデーション、遠近の仕組み、輪郭線。
5	鉛筆デッサン	果物や野菜を精密に鉛筆デッサンする。
6	色と形を楽しもう①	エリックカール技法、エンバリーおじさん技法。
7	色と形を楽しもう②	3原色でリアルな野菜を描こう。
8	色と形を楽しもう③	子供の物語性を引き出す想像の世界。
9	スタンプ遊び①	指紋スタンプで描いてみよう。
10	スタンプ遊び②	紙版画技法を学ぼう。
11	きってやぶいてよーくみて①	いちごがいっぱい！何にみえるかな！絵本作り。
12	きってやぶいてよーくみて②	巨大クッキング～焼そば。
13	重ねてコラージュ①	水きりえ～水でぬらした小筆で色刷り新聞紙を切って貼る。
14	重ねてコラージュ②	紙ビーズのアクセサリ。
15	まとめ	オリジナルの授業計画を作成する。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと造形Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S21019
担当者氏名	満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

造形あそびをする時、人間は生活していくために必要な行動が自然に組み込まれている。穴を開ける、縫う、編む、織る、切る、貼る、並べる、繋ぐ、組み立てる、こねる、包む、描く。子供はこれらの事を遊びを通して行う。この様な活動の繰り返しの中で『形のなりたち』を体験することができる。園で開催される行事や展示立体作品を中心にイベント企画を提案する。

《テキスト》

時間毎に計画書と参考資料を配付する。

《参考図書》

イタリア:レッチョ・エミリア市の幼児教育実践録『子どもたちの100の言葉』（学研）

《授業の到達目標》

オリジナルの紙を作る（集める、並べる）
 粘土で記念品を作る（組み合わせる、重ねる）
 ダンボール、布、缶、プラスチックで壁面や展示作品を作る（組み換える、生かす）

《授業時間外学習》

予習方法。毎回使用する素材や材料について研究、収集をする。復習の方法。授業内容を再確認し、疑問点がある場合は随時答える。

《成績評価の方法》

提出作品（100%）により成績評価を行う。

《備考》

授業のはじめに出席をとります。その後時間毎の資料に基づき説明に入ります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	材料、道具の説明。
2	造形遊び①	紙の引出しペーパーの制作。
3	造形遊び②	模写作品。
4	造形遊び③	粘土でミニチュアクッキング。food制作。
5	造形遊び④	粘土でミニチュアクッキング。記念品制作。
6	造形遊び⑤	ガチャポンの風鈴制作。
7	造形遊び⑥	立体ワンコ。型紙切断、組み立て。
8	造形遊び⑦	立体ワンコ。組み立て、張子作業。
9	造形遊び⑧	立体ワンコ。張子作業、ジェッソ塗り、下図犬制作。
10	造形遊び⑨	立体ワンコ。ジェッソ塗り、下図犬制作、本塗り。
11	造形遊び⑩	立体ワンコ。本塗り、仕上げ。
12	造形遊び⑪	カンカン宝箱制作。
13	造形遊び⑫	リメイク大作戦、お昼ねテント&ふりふりフラッグ制作。
14	造形遊び⑬	全作品チェック後、学内にてピクニックを開催。
15	まとめ	オリジナルの授業計画を制作。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと運動Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S11003
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する 		

《授業の概要》

演習科目である為、理論と実践を交えながら進める。子どもの理解を深める意味で附属幼稚園の子どもの観察をしたり子ども達と接する機会を持つ。この授業を通して得た知識を、Ⅱ期開講の子どもと運動Ⅱに有効に活用されることを期待する。

《授業の到達目標》

保育者として乳幼児期の運動遊びを適切に援助できる能力を養うことを目標とする。その為、子どもの発育発達特徴を理解し乳幼児期における運動の正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動遊びの考え方や実践方法を理解する事によって、乳幼児期に適した運動実践の在り方や援助方法を学ぶ。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。ノート、レポート、テストに対してコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、授業ノートのまとめ方等を説明する。
2	発育発達期の特徴	子ども達を取り巻く問題点と運動遊びの必要性、援助における問題点の対策について
3	発育発達期の障害と予防	発育発達期に応じた運動遊びと留意点の理解
4	精神面の発達特徴	各年代別における精神面の発達特徴の理解とコミュニケーション方法
5	体力と運動機能の発達	体力と運動機能（関節運動を含む）発達過程と特徴
6	心拍数の運動生理学	心拍数からみた運動発達の特徴と運動遊び
7	呼吸循環機能の発達	各年代における呼吸循環機能の発達と運動遊び
8	移動系運動の発達	移動系運動の発達特徴と運動遊びの実際
9	操作系・非移動系（平衡系）運動の発達	操作系・非移動系＜平衡系＞運動の発達と運動遊びの実際
10	体力測定及び運動能力測定	体力測定及び運動能力測定の実施方法及び測定結果の活用方法
11	運動指導プログラム	各年代における発育発達特徴を踏まえた運動遊びプログラムの実際と援助方法
12	移動系運動指導のプログラム	移動系運動の考え方をと運動遊びプログラム
13	操作系運動指導のプログラム	操作系運動の考え方をと運動遊びプログラム
14	非移動系（平衡系）運動の指導プログラム	非移動系（平衡系）運動の考え方をと運動遊びプログラム
15	まとめ	各年代における運動発達特徴の確認。場面に応じた運動実践方法。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

「運動発達の科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）「幼児の運動発達学」小林寛道（ミネルヴァ書房）「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著（杏林書院）“Motor Development and Movement Experiences for Young Children” DAVID L. GALLAHUE, John Wiley&Sons, ink

《授業時間外学習》

＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

乳幼児期の運動遊びの指導者として必要な知識や援助方法を身につけて欲しい。

科目名	こどもと運動Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S21022
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

演習科目である為理論と実践を結びつけながら進める。幼児の理解を深め実践能力をより高める意味で附属加古川幼稚園の子どもを観察をしたり幼児と接する機会を持つ。今までの学校体育で経験した内容やスポーツ実践での考え方の枠を外してより柔軟的に運動を捕らえ、保育における幅広い運動遊びの実践に役立つ内容を実施する。

《授業の到達目標》

保育における幼児期の各年代に応じた運動遊びの援助が的確に出来る能力を養うことを目標とする。その為に、子どもの発育発達特徴を理解し幼児期における運動遊びの正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動の考え方や実践方法を理解する事によって、幼児期の各年代に適した運動実践の在り方を学ぶ。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）学期末に理解度を確認するテスト（20%）ノート、レポート、テストに対してコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	移動系運動（1）	移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
3	移動系運動（2）	移動系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際
4	操作系運動（1）	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
5	操作系運動（2）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際①
6	操作系運動（3）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際②
7	非移動運動（1）	非移動運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
8	非移動運動（2）	非移動運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際
9	対人ゲーム	対人におけるルール遊びの方法と実践
10	集団ゲーム（1）	集団におけるルール遊びの方法と実践①
11	集団ゲーム（2）	集団におけるルール遊びの方法と実践②
12	年代に応じた運動遊び（1）	3歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点
13	年代に応じた運動遊び（2）	4歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点
14	年代に応じた運動遊び（3）	5歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点
15	まとめ	全体のまとめをする

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「運動発達の科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）
 「幼児の運動発達学」小林寛道（ミネルヴァ書房）
 「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著（杏林書院）
 “Motor Development and Movement Experiences for YoungChildren”
 DAVID L. GALLAHUE, John Wiley&Sons, ink

《授業時間外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

幼児期の運動遊び指導者および小学校体育指導者として必要な知識を身につけて欲しい。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こども文化論Ⅰ	科目ナンバリング	YS_L21025
担当者氏名	土居 安子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

こども文化の意義と技術の習得のために様々な文化財を提示する。
 こども文化とは何かを理解し、様々なこども文化財の創作を通してこども文化の心に触れ、幼児教育者としての感性と創造性を養う。

《テキスト》

『ことばと表現力を育む児童文化』川勝泰介他編著 萌文書林

《参考図書》

『子どもの本100問100答』大阪国際児童文学館編 創元社

《授業の到達目標》

こども文化がこどもの個性を伸ばし新しい時代に的確に対応した自己確立を促すものであることを理解することができる。
 こども文化の意義を理解し、こどもの価値志向を伸ばす素材について考えることができる。
 こどもが文化を享受し、創造して遊ぶことの実際を、各実習において検証することができる。

《授業時間外学習》

日頃から、絵本、紙芝居、人形劇など、こどもの情操を育む素材に触れるようにしましょう

《成績評価の方法》

定期試験（70%）、小レポート（20%）、受講態度等（10%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等の説明、本授業と幼稚園教諭・保育士資格との関連、幼稚園等における本授業内容の展開
2	こども文化とは何か	こども文化の定義
3	こども文化における「こども」	法律におけるこども、心理学におけるこども
4	こども文化とこども観①	古代から近世
5	こども文化とこども観②	明治時代
6	こども文化とこども観③	大正時代
7	こども文化とこども観④	昭和時代
8	さまざまなメディアとこども文化の変遷	メディアの変遷の中でこども文化を考える
9	こどもの情操を育む文化財①	絵本
10	こどもの情操を育む文化財②	幼年童話
11	こどもの情操を育む文化財③	詩・ことばあそび
12	こどもの情操を育む文化財④	マンガ
13	こどもの情操を育む文化財⑤	紙芝居
14	こどもの情操を育む文化財⑥	ペープサート・人形劇
15	こどもの情操を育む文化財⑦	アニメーション